

eGFRが低くても CKDとは限らない

札幌市医師会
（公財）北海道労働保健管理協会 札幌総合健診センター

なかむら かずひろ
中村 一博

健診の問診をしていたら、かかりつけ医に腎機能低下といわれている受診者さんを見つけました。40代で見た目も若々しく筋骨隆々として、お元気そうな方です。尿検査で尿蛋白、尿潜血、尿糖のいずれも陰性、血圧も正常でした。血液検査では血清クレアチニン値が1.10mg/dl、eGFRが58.3ml/min/1.73m²で、検査値上は腎機能低下ということになります。高血圧と糖尿病の既往歴はなく、脂質異常症と高尿酸血症の治療中で、約10年前に禁煙しており、飲酒量は多いそうです。

最近、テレビで「GFR値が低い人は、お医者さんにご相談を」というCMが流れています。慢性腎臓病（CKD）早期発見のキャンペーンのようです。GFR（糸球体濾過量）とは、単位時間あたりの腎糸球体で濾過される血漿量を意味します。GFRを把握することは腎機能評価のうえで理想的ではありますが、その正確な把握は現代の医学をもってしても困難です。よく血液検査結果に自動的に表示されるeGFRはGFRではありません。

血清クレアチニン値を測定した時に、一緒に検査結果に表示されるeGFR（estimated glomerular filtration rate: 推算GFR）は、患者さんの年齢、性別、血清クレアチニン値から計算したGFRの推定値です。血清中のクレアチンは筋肉内のクレアチンやクレアチニン酸の代謝物であるため、筋肉量自体から直接的な影響を受けます。筋肉量が多いほど、血清クレアチニン値は高くなり、eGFRは低くなり、真のGFRから乖離した値になります。

一般的にCKDの原因としては慢性糸球体腎炎、糖尿病性腎症、腎硬化症が考えられます。しかし、この受診者さんには、それらが当てはまりません。では、なぜeGFRが低いのかというと、筋肉量が多く、そのため腎機能とは関係なく血清クレアチニン値が高いためと思われれます。このような場合は血清シスタチンC値が役に立ちます。血清シスタチンC値は筋肉量の影響を受けずにGFRを反映するので、これが正常範囲であれば腎機能が低下していないと証明できます。

若年者で明らかな腎疾患が無く、筋肉量が多い方のeGFRが低い場合は、CKDと診断する前に血清シスタチンC値を測定してみてください。

来てみてびっくり冠婚葬祭の 違い、意外に合理的かも

函館市医師会
函館五稜郭病院

かじ まさひで
加地 正英

6年前に転勤で福岡県から函館に着任しました。地理的にもかなり距離があるので、風土の違いなどはある程度予測はできましたが、結構驚いたのは、冠婚葬祭の違いでした。年齢からは葬祭の方が多いのですが、北海道の結婚式は、会費制であり、いわゆる「ご祝儀」は不要です。招待状に「会費」の金額が記載されており、参加する場合、会場で会費の支払いをすればOKなので、それ以外のご祝儀等は不要なのですが、西日本では、友人でも30,000円程度のご祝儀を包むのが相場です。特に医局に属していた折には、知人にはもちろん医師が多いのですが、どのくらい「おつつみ」すればよいのか医局長に相談したこともあります。通常はだいたい上記の金額ですが役職によっても若干異なることもありました。会費制の結婚式は、北海道がまだ貧しい開拓時代には、若い二人の結婚を祝福しようと、友人が発起人となり多くの友人達を誘い、お金を出しあって集まり祝ったのが、北海道式の結婚式の始まりと聞いています。最近この会費制結婚式も西日本においても増えているようですが、結構合理的で良い習慣ではないかと思いました。

一方、北海道のお通夜・お葬式にも、西日本とはちょっと違った風習に気がつきました。北海道の場合はお通夜に香典を持参するのが一般的ですが、受付で香典を渡す際、香典袋には必ず「氏名、住所、金額」を明記するようになっていることです。西日本でも同様に記載することもあります。だいたい表に氏名と内部の封筒に金額を書くことが多いようです。また西日本ではだいたい芳名帳がありますが、北海道にはないこともあるように感じます。

また全部の地域ではないかもしれませんが、香典に領収書が発行されることです。西日本でも会社関係で香典の領収書を発行依頼すればできるのかもしれませんが、葬儀の場で領収書の発行が行われているのをあまり見たことがありません。葬儀のときに領収書の発行は結構な手間がかかりますが、あわただしい葬儀で、家族が沈んでいるときには、おおむね親戚や知人が受付で受け取ることもあると考えられます。そのような場合には明朗会計？で良い習慣ではないかと思いました。

地域特性といえ、結構理にかなった合理的習慣ではないかと思いました。